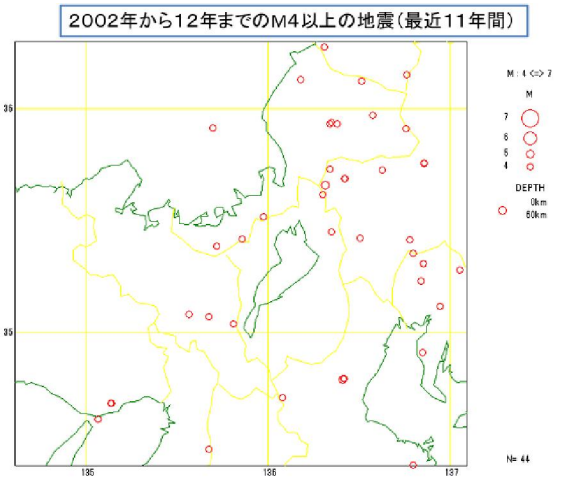
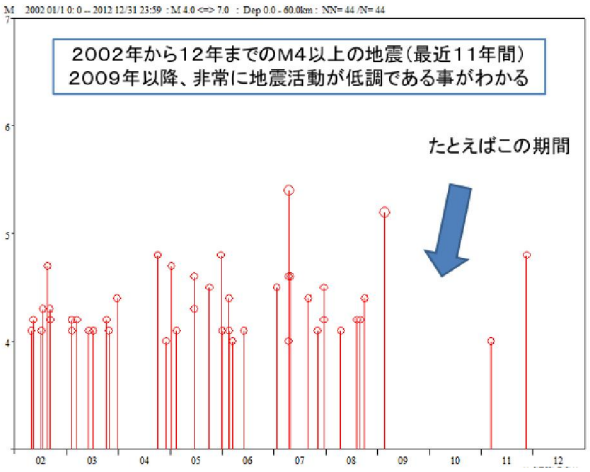
DuMA ニュースレター *2013年1月22日*

関西圏の地震活動について

これまで何度も「近畿地方、特に京都や琵琶湖周辺の地震活動がおかしい」ということを述べてきましたが、複数の地震活動の研究者が同じような事を考えていることがわかりました。また、地震活動の異常は近畿のみにとどまらず、鳥取周辺まで広がっていることが確認されています。今回は地下天気図を離れ、実際にどのような事が起きているのか解説したいと思います。

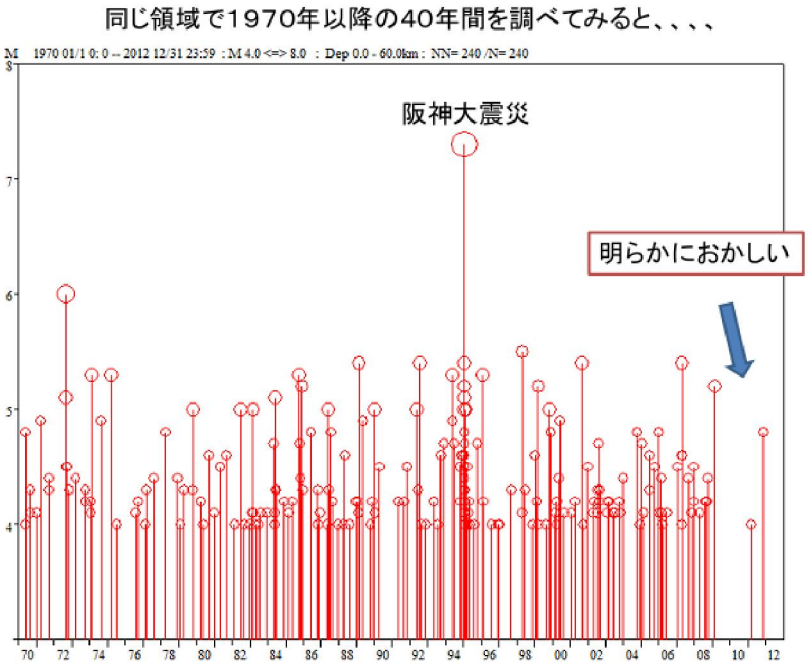
下図は最近１１年間の琵琶湖を中心とする近畿地方の地震活動です。右側の図はその時間変化で、横軸は 2002 年から 2012 年までとなっています（縦軸はマグニチュード）。2009 年以降、この領域の地震活動がきわめて低下していることがわかります。





それではもっと長期間ではどうでしょうか。同じ領域で 1970 年からの地震発生の時間変化を見てみます。やはり最近の３年ほどは異様に地震活動が低調である事がわかります（静穏化）。この静穏化は東日本大震災の前から発生していますので、この静穏化は東日本大震災を意味していたという事も考えられます。

しかしながら、明治以降の地震活動のデータの蓄積により、関西地方を含む広い領域で静穏化が発生しますと、その後、濃尾地震(1891 年，M8.0)のような内陸での巨大地震や、日本海中部地震(1983 年，M7.7)、鳥取県西部地震(2000 年，M7.3)のような日本海側で大地震が発生しているようにも見えるのです。



近畿地方では電磁気学的な異常は現在観測されておらず、地下天気図でもまだ緊急性が高いとは考えていませんが、今後も注意深く解析を続けていきたいと思います。

DuMA が提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。　提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。